

台湾茶NOW

2012年9月 第10号(秋)

第2回

台湾茶インストラクター2012

第1次試験:

2012年9月30日(日)

第2次試験(第1次試験合格者のみ):

2012年10月28日(日)

【受験会場】 台湾大学進学予備校 秋葉原校
東京都千代田区神田松永町16番地 ダイキビル2F

【試験時間】 10:00開始～12:00終了 (9:00開場)

【受験資格】 16歳以上

【試験方法】 第1次試験(筆記):100問・四者択一マークシート方式・120分

※「台湾茶學～入門編～」より70問出題

※合格基準:インストラクター90点以上/アドバイザー70点以上

第2次試験(実技):茶鑑定、お茶の淹れ方等

【お申し込み方法】 郵送・FAX・E-mail

※指定の書式に記入しお申し込み下さい。

【受験費用】 (一般) ¥26,250(税込) / (会員) ¥21,000(税込)

【受付期間】 2012年6月1日(金)～8月31日(金)

※郵送の場合は8月31日消印まで有効です。

※FAXは8月31日18:00まで受け付けます。

※E-mailは8月31日24:00まで受け付けます。



※会員様に関しては、ご希望により受付期間も延長させていただきます。
事前にメールにてお問い合わせ下さい。info@tea-taiwan.org

台湾茶生産地の台風による影響と農薬管理

台湾各地の夏茶の生産作業は7月上旬に全て終了した為、7月末の台風9号による風害は免れたものの、豪雨により高山茶生産地は稀に見る土石流に見舞われ、更に8月の台風11号外周の気流による影響で、中南部は再度豪雨の被害に遭った。毎年台湾各地は台風による影響が少なくなく、山間地の産業道路の過度な開発や、土壌と水の状態保全が良くない場所もあり、大雨による被害が多発している状況である。

内需用の茶葉生産に関しては、夏茶と第二次夏茶(六月白)では極端な天候による影響で茶樹を更新することも珍しくないが、名間茶区の一部の茶農家で最近必死に生産されていた工夫紅茶や、高山茶区の紅茶生産は明らかに落ち着きを見せ、茶樹の健康を維持しながら秋茶の品質向上への警戒が強まってきている。

現在世界中で健康意識が高まる中、日本だけでなく欧米国家でも、茶農家の農薬使用や製造過程における衛生環境に対する要求が厳しくなりつつある。近年、農政機関では常に農薬の安全使用及び衛生に対する要求を提唱しており、「世帯茶農家」、「トレーサビリティ」の確立、更には「QRコード」の構築に至るまで、何れも緊急の課題となっている。台湾は小さい国なので、地方特色茶の認証を過剰に許可し、消費者の混乱を招く事はできない。茶農家には、それぞれ茶樹栽培の時点から農薬の安全使用を徹底し、台湾茶野市場や永續経営に努めてもらうよう、引き続き国を挙げて指導をしていくことになっている。

大量生産用茶葉に関して、今年の「六月白茶」では少量の煎茶や珠茶が生産された他、緑茶型包種茶の生産が主となり、市場の需要が少ないことで生産量は不足している。白毫烏龍茶や番庄烏龍茶の取引は安定している。